

「びわこ文化公園都市将来ビジョン改定」の進捗状況について

1. びわこ文化公園都市将来ビジョン策定からの経緯

- ・ H24.8 「びわこ文化公園都市将来ビジョン」策定
- ・ H25.2 エリア内の施設・機関にて「施設連携協議会(※)」を設置
- ・ R 2.6 大津市、草津市がビジョン推進に参画
- ・ 今年 「将来ビジョン」の見直し(現行ビジョン策定から10年経過)

(※)施設連携協議会

3大学(滋賀医大、龍谷、立命館)、医療関連施設(血液センター、口腔センター等)、福祉関連施設(長寿社会福祉センター、むれやま荘等)、文化施設(美術館、図書館等)等の23施設・機関

2. 「将来ビジョン」改定について

(1) 改定プロセス

- ・ 「将来ビジョン」実行主体の「施設連携協議会」が「検討委員会」を設置(R4.6)
- ・ 検討に必要な利用者意見を広く募るため、帝産バスとタイアップし、JR西日本やフォレオ大津一里山等の協力を得ながらアンケートを実施(R4.6～)
- ・ 検討委員会を開催
 - ①第1回委員会(R4.6.30)
 - ・ 検討の方向性や各委員からビジョン改定に向けた意見出し
 - ②第2回委員会(R4.9.7)
 - ・ 現行ビジョン10年の振り返りや「将来ビジョン」改定のポイント

(2) 「将来ビジョン」改定の概要について

「別紙」のとおり

3. 今後の予定

- 1月 第3回検討委員会開催
- 2月 施設連携協議会にて委員意見を踏まえた改定版ビジョンを決定
- 4月～ 改定版ビジョンに基づく取組の実施

びわこ文化公園都市将来ビジョン改定について

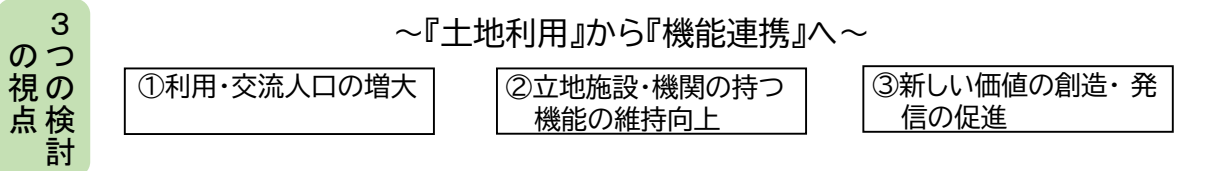
1 びわこ文化公園都市の経緯

- ・昭和54年、大津市・草津市に広がる520haを「びわこ文化公園都市構想区域」に位置づけ。
- ・昭和57年、この構想を実現するため、基本計画に5つのクラスターと「緑の回廊」を位置づけ。
- ・平成24年、基本計画の策定から30年が経過し、今後のあるべき姿や取組みの方向性を定めた「びわこ文化公園都市将来ビジョン」を策定。

2 現行ビジョン(H24)の概要

【実施主体】
施設連携協議会(びわこ文化公園都市に立地する23 施設、県、大津市、草津市)

【将来像と方向性】
○「土地利用」の観点からゾーニングを基に施設整備を行ってきたが、強み、課題、取り巻く社会状況等を踏まえ、次のステップとして、整備、蓄積された施設・機関が相互に機能を高め合う「機能連携」の観点へ主眼をシフト。



5つの将来像

県内外の人々が交流する場	文化・芸術を創造する場	未来成長へ挑戦する場	歴史と暮らしを紡ぐ場	いのちと健康を支える場
施設や資源を活かした幅広い県民の利用や参加を促進する取組の実施	県立近代美術館の機能の充実・強化に向けた取組の実施	各大学等の研究シーズと事業者ニーズとの接続を促進する取組の実施	歴史資源、樹林地の保存、活用への促進に向けた取組の実施	安全性快適性の向上と利活用促進に向けた取組の実施
地域内外のアクセシビリティの向上に向けた取組の検討	滋賀らしい文化・芸術の創造・発信を促進する取組の検討	産学官金民が連携した研究成果の事業化の促進に向けた検討	地域の資源を次世代に受け継いでいくための新たな仕組みの検討	心身の健康維持・増進の促進に向けた検討

方向性の取組

仕組める

短期:◎「施設連携協議会」および「WG」の設置の設置(情報交換・共有、連携、調整等)
○具体的なテーマに基づく、立地施設と地域、県民、企業等との連携を促進する取組の実施

中長期:○多様な主体の連携によるまちづくりを進める全体マネジメントの仕組みの検討

3 ビジョン改定のプロセス

- ・現行ビジョン策定から10年経過することや、びわこ文化公園都市を取り巻く環境が変化しつつあることを踏まえ、令和4年度に見直しを実施することとした。
- ・改定にあたっては、ビジョンの実施主体であるエリア内の23施設等で構成する「施設連携協議会」が設置した「びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会」にて、提言をまとめているところ。(第1回委員会:6月30日、第2回:9月7日、第3回:令和5年1月予定)

【検討委員会の構成】

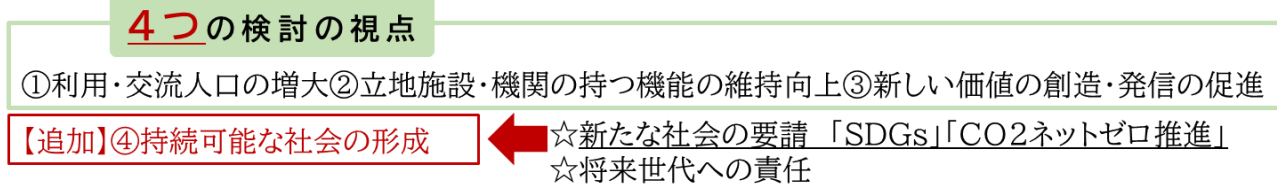
滋賀県立大学 環境科学部 建築デザイン学科	教授(学部長)	村上 修一氏(委員長)
立命館大学 理工学部 環境都市工学科	教授	岡井 有佳氏
龍谷大学 社会学部 コミュニティマネジメント学科	准教授	築地 達郎氏
大津市瀬田東学区自治連合会	会長	仲川 欣伸氏
草津市南笠東学区まちづくり協議会	会長	清水 和廣氏
大津市政策調整部長、草津市総合政策部長、県総合企画部次長、県土木交通部技監		

4 委員会での議論の方向性

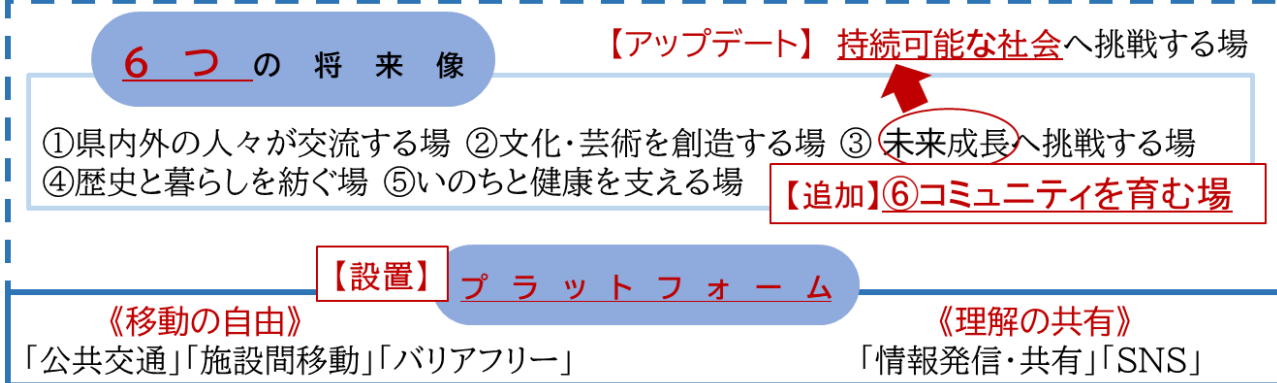
1. 「検討委員会」で出された主な意見

- ☆将来世代への責任という明確な命題を挙げる
- ☆持続可能な社会へ向けた挑戦、そういうニュアンスがいい
- ☆滋賀県の大きな問題を解決するためのテストケースとしてどんどん活用
- ☆もう一つ別建てで、暮らすコミュニティについての将来像がいるのではないか。
- ☆自治というのが非常に重要なキーワード
- ☆5つの将来像という縦軸に対して、横軸として優先的に解決すべき課題がプラットフォーム
- ☆誰でも自由にどこにでも移動できる、お互いがお互いの理解を共有できる、この2つを大きく包含するこれらの横軸は、今のビジョンにはない
- ☆指標については、もっと夢のあるものであってほしい

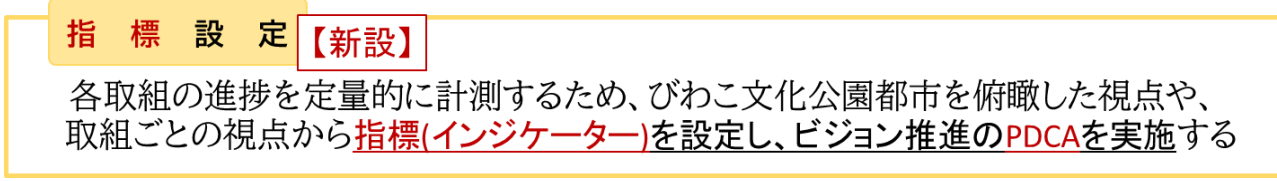
2. 「3つの検討の視点」に新たな視点を追加



3. 「将来像」のアップデート・追加と将来像を支えるための「プラットフォーム」を設置



4. 「取組の方向性」へPDCAサイクルを導入



5. 「支える仕組み」として「施設連携協議会」の機能と構成を充実

